

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年  
11月1日  
第140号



## アマドコロ (キジカクシ科)

第一圃場で、いま白くカサカサになり始めた葉の下にポツポツと果実が見られます。初夏、山地や草地でナルコユリと共にスズランに似た花をご覧になった方も多いでしょう！多年草です。ナルコユリとの見分け方はアマドコロは茎に稜があり、ナルコユリには無いので見分けられます。アマドコロの名は根茎の見た目がヤマノイモ科のオニドコロ（鬼野老）に似ており甘味があることによります。野老（トコロ）とは老人の意味で、横に這う根茎にひげ根が多いのを例えたものだそうです。若い茎葉と根茎は食用にもなります。アマドコロの中国語名が玉竹（ギョクチク）、その別名が萎蕤（イズイ）です。根茎から成る生薬の名も玉竹で、漢方薬には使用されませんが、中医学では養陰潤燥、生津止渴を目的に利用され、日本でも民間で薬酒としたりします。

## ギンモクセイ (モクセイ科)

薬用植物園、温室の南側の森林区に、白い花が咲いています。2017年第27号で紹介したキンモクセイと比べると、花の香りも弱く、地味に見えてしまいますが、基本種はこちらで、キンモクセイが変種、ただ「モクセイ」と呼ぶとこの種を指します。中国語では、キンモクセイ、ギンモクセイ、それぞれの植物名を「金桂」「銀桂」と呼び、どちらの花も生薬「桂花」の原料として利用できるようになってはいますが、香りがよいものが良品とされるので、キンモクセイ由来のものがもっぱら流通しています。中医学で桂花は、温肺化飲、散寒止痛を目的に、咳嗽、腹部冷痛、月経痛に使う他、含嗽で歯痛、口臭予防に利用します。でも、もっぱら香料として茶外茶や薬酒に使われますね。